

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 5 区分

【発行日】平成 28 年 3 月 3 日 (2016.3.3)

【公表番号】特表 2015-509151 (P2015-509151A)

【公表日】平成 27 年 3 月 26 日 (2015.3.26)

【年通号数】公開・登録公報 2015-020

【出願番号】特願 2014-553339 (P2014-553339)

【国際特許分類】

D 0 4 B 21/18 (2006.01)

D 0 4 B 21/08 (2006.01)

A 4 1 D 31/00 (2006.01)

【F I】

D 0 4 B 21/18

D 0 4 B 21/08

A 4 1 D 31/00 D

A 4 1 D 31/00 5 0 1 E

A 4 1 D 31/00 5 0 2 C

A 4 1 D 31/00 5 0 3 G

A 4 1 D 31/00 5 0 3 L

【手続補正書】

【提出日】平成 28 年 1 月 15 日 (2016.1.15)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

30 ～ 75 デニールの総繊度を有するポリトリメチレンテレフタレート (P T T) 系と

、

20 ～ 70 デニールの総繊度および 100 % を超える破断時伸びを有する弾性系とを含むロックニット柄を有する経編生地であって、

(a) 70 : 30 ～ 90 : 10 の前記 P T T 系対前記弾性系の重量比、

(b) 15 ～ 35 コース / c m のコース密度、および 180 g / m² 以上の基本重量、および

(c) 経方向において 120 % ～ 185 % の伸び、および緯方向において 80 % ～ 150 % の伸び

を備える、ロックニット柄を有する経編生地。

【請求項 2】

前記弾性系が、式 (1)、

$$T D_e = B D_e \times [R I_{p t t} / R I_e] \times L K \times S D \quad (1)$$

により計算される 2.6 倍 ～ 4.0 倍の総ドラフトを有し、

式中、

T D_e : 弾性系の総ドラフト、

B D_e : 弾性系のビームドラフトであり、1.7 倍、

R I_{p t t} : P T T 系の編込長であり、約 1400 ～ 2000 mm / ラックの範囲、

R I_e : 弾性系の編込長であり、約 200 ～ 1000 mm / ラックの範囲、

L K : ロックニット柄の編込比であり、1.33、および

S D：弾性系のスプールドラフトであり、1.0倍、である、請求項1に記載のロックニット柄の経編生地の製造方法。

【請求項3】

衣類用への請求項1に記載のロックニット柄の前記経編生地の使用。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0128

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0128】

本発明を、特定の実施形態に関連して述べてきたが、多くの代替案、修正形態、および変形形態が当業熟練者には明瞭なことは歴然としている。したがって本発明は、別添の特許請求の範囲のその精神および広い範囲に含まれるそのようなすべての代替案、修正形態、および変形形態を包含することを意図している。

次に、本発明の態様を示す。

1. 30～75デニールの総繊維度を有するポリトリメチレンテレフタレート（PTT）系と、

20～70デニールの総繊維度および100%を超える破断時伸びを有する弾性系とを含むロックニット柄を有する経編生地であって、

（a）70：30～90：10の前記PTT系対前記弾性系の重量比、

（b）15～35コース/cmのコース密度、および180g/m²以上の基本重量、および

（c）経方向において120%～185%の伸び、および緯方向において80%～150%の伸び

を備える、ロックニット柄を有する経編生地。

2. 20～30コース/cmのコース密度および約180～250g/m²の基本重量を有する、上記1に記載のロックニット柄の経編生地。

3. 前記弾性系が、式（1）、

$$TD_e = BD_e \times [RI_{ptt} / RI_e] \times LK \times SD \quad (1)$$

により計算される2.6倍～4.0倍の総ドラフトを有し、

式中、

TD_e：弾性系の総ドラフト、

BD_e：弾性系のビームドラフトであり、1.7倍、

RI_{ptt}：PTT系の編込長であり、約1400～2000mm/ラックの範囲、

RI_e：弾性系の編込長であり、約200～1000mm/ラックの範囲、

LK：ロックニット柄の編込比であり、1.33、および

SD：弾性系のスプールドラフトであり、1.0倍、である、上記1に記載のロックニット柄の経編生地

の製造方法。

4. 前記弾性系の前記総ドラフトが、2.8倍～3.6倍である、上記3に記載の方法。

5. 前記弾性系の前記総ドラフトが、3.0倍～3.4倍である、上記3に記載の方法。

6. RI_{ptt}/RI_eの前記比が、2.0を超える、上記3に記載の方法。

7. RI_{ptt}/RI_eの前記比が、2.2～2.8である、上記3に記載の方法。

8. 衣類用への上記1に記載のロックニット柄の前記経編生地の使用。